

第16回月例会（北東アジア地域研究会・国立民族学博物館拠点）報告

第16回月例会を平成30年1月23日（火）に国立民族学博物館で開催いたしました。4名の拠点構成員を含めて6名が参加しました。

今回は民博の外来研究員である趙芙蓉に発表していただきました。『東モンゴルにおけるシャマンの治療儀礼の比較研究—中国内モンゴルのホルチン・シャマニズム、バルガ・シャマニズムの事例より』というタイトルで、ホルチンとバルガを比較しながら憑依の現れ方の違いを提示し、その違いをそれぞれの地域の文化的・歴史的背景から分析しました。シャマニズムの理論的な視点や他の地域の事例から議論が行われました。

